

「すべての教員」「全教科・領域」で取り組む

第2期

泉大津市 学力向上プラン

～小・中学校における 確かな学力の育成～

～教職員の資質・能力の向上～

令和7年4月

泉大津市教育委員会



はじめに

学校教育において、「主体的・対話的で深い学び」の視点を重点とした学習指導要領が、令和2年度(小学校)と3年度(中学校)から全面実施となっています。そこで泉大津市では、学習指導要領に基づき、第2次泉大津市教育振興基本計画を策定しています。



第2次泉大津市教育振興基本計画
<https://www.city.izumiotsu.lg.jp/material/files/group/37/kyouikukeikaku.pdf>

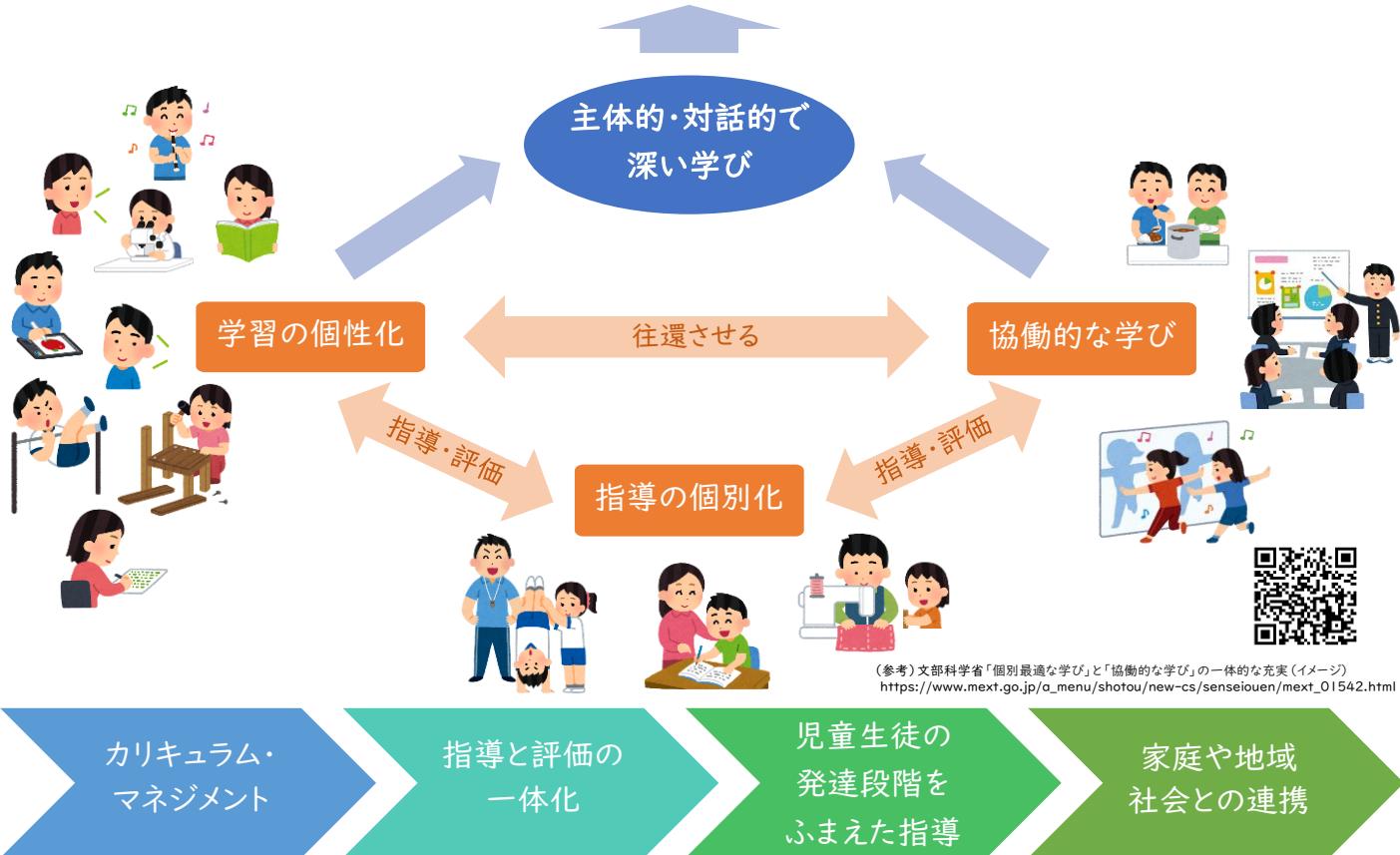
以下は、学習指導要領に関する指導資料のイメージ図です。

義務教育としての目標

生きる力 資質・能力の育成



(参考) 文部科学省HP <https://www.youtube.com/watch?v=wc8VdrwOMBs>



計画の位置づけ

泉大津市では、この学力向上プランを次のためのものと位置づけ、令和6~8年度で実施します。

「教職員の資質・能力の向上」

「確かな学力の育成」

「学力向上プラン」3ヵ年計画の目標

①教師の分析力向上 ②教師のRSの視点の獲得 ③子どもの自学力向上

指標 ○学習意識調査 ○全国学力・学習状況調査の通過率、正答率及び解答類型への反応率、質問紙結果

R7重点項目

教職員の資質・能力（授業力）の向上

全国学調 分析

- ・問題分析
 - ・結果分析
 - ・分析の共有
- 分析のプロセスを授業に生かす

汎用的な基礎的 読解力

- ・RSの視点からの授業改善
- ※ 汎用的な基礎的読解力
…リーディングスキル（RS）

環境づくり 集団づくり

- ・自己存在感
- ・自己決定
- ・教室環境
- ・家庭学習支援
- ・共感
- ・安全安心
- ・学習規律
- ・UDの視点

子どもたちの確かな学力の育成

すぐに溶けて
AIに代替される！

「見える学力」
知識・技能 等

「見えにくい学力」
思考力・判断力・表現力
・言語能力
・情報活用能力
・問題発見・解決能力
・コミュニケーション能力 等

学習指導と生徒指導の一体化

「ほとんど見えない学力」
学びに向かう人間性
・自己調整力
・粘り強さ
・興味・関心・感性・経験 等

(参考) 学力の氷山モデル
梶田叡一「教育における評価の理論 I : 学力観・評価観の転換」金子書房
東京都立王子総合高等学校長「2023年度リーディングスキルフォーラム実践報告資料」

学力向上プラン策定委員会通信ビデオ

学力向上プランの策定にあたっては、各校の授業づくり担当等の先生方の協力のもと、ブレストや周知方法についての協議を重ね、全教職員の皆さんにもアンケートの形でご協力いただきました。

各校の主体性を尊重しつつ、指針となるものをめざし、プランも通信もアップデートしていきます。

プラン策定の過程やその運用についての説明はこちら

著作権の観点により省略



年間スケジュール

4月

全国学力・学習状況調査（小6・中3）

小学生すくすくウォッチ（小5・小6）

問題分析から授業改善へ

6月

- ・「全教員」が、問題を解く
- ・「全教員」が、「分析の視点」に基づいて問題分析を行う
- ・「全教員」で、分析結果から授業改善の方策を練る（校内研修の実施など）

中学1年生のRST受検

7・8月

結果分析から授業改善へ

- ・「全教員」が、結果を読み解く
- ・「全教員」が、「分析の視点」に基づいて結果分析を行う
- ・「全教員」で、分析結果から授業改善の方策を練る（校内研修の実施など）

教職員RSTの体験

9月

大阪府チャレンジテスト（中3）

チャレンジテストの分析については、学調分析の流れを参考に子どもの実態把握を行い、授業改善に生かす

問題分析から授業改善へ

RSの視点からの授業改善へ

10~12月

RSについての学習会や
授業づくり研修 等

結果分析から授業改善へ

学力向上プラン（3年目）素案の提示

1・2月

大阪府チャレンジテスト（中1・中2）

問題分析から授業改善へ

実践交流

結果分析から授業改善へ

3月

各学校、今年度の取組み総括及び次年度に向けた計画

I. 学力・学習状況調査等の「問題・結果」分析から授業改善へ

全国学力・学習状況調査等の調査問題については、学習指導要領が求める、資質・能力を踏まえ、それを教育委員会や学校に對して、具体的なメッセージとして示されているため、授業改善にとても有用であるとされています。

問題分析の視点

「題材」に着目する

・教科の枠を超えて、授業改善につながるたくさんのヒントがある。

「構成」や「配列」に着目する

・どんな力を身に付けるのか整理し、どの順序で、どんな課題を設定するのか、単元デザインの例として活用できる。

「問い合わせ」に着目する

・丁寧で具体的な問い合わせ

・1文に1つの指示や発問

「解答類型」に着目する

・誤答を予想

・子どもたちのつまずきから指導の改善を図る。

「類似問題」に着目する

・問題の定着率を比較し、指導の在り方を再確認する。



授業改善につなげる

結果分析の視点



I. 成果と課題の洗い出し

「正答率」に着目する

・まずは、府や全国と比較する。正答率の高さから、成果と課題を見つける。

「内容や領域」「評価の観点」「問題形式」に着目する

・成果や課題が特徴的に現れてくることもある。そこに着目すると、各学校や教師のそれまでの「取組み」や「強み」、「弱み」を知ることができる。

「無解答率」に着目する

・正答率が高くても無解答率が高い場合や、逆に正答率が低くても、無解答率も低い(子どもたちが何かしら、記述しようとしている)こともある。

「反応率」に着目する

・解答類型から「反応率」を見てみると、子どもたちの誤答の状況や躊躇やすがが見えてくる。

同一集団の経年変化の「伸び」に着目する

・各学校や各学年の重点について、成果や課題を知ることができる。

2. 学校全体で課題となるような「問題」の抽出

3. 2の「問題」について、課題改善のための取組みを考える

めざす子どもの姿の共有

& その実現に向けた取組みの実践

II. リーディングスキルの視点からの授業改善

学力調査の解答類型から見られる泉大津市の学力に関する課題

1. 基礎的・基本的な読み書き等の知識・技能

2. 文章や図・表などの複数の資料から情報を関連付けて読み取り、論理的に自分の考えを構築し、表現すること

基礎的・汎用的読解力「リーディングスキル」に課題

※「リーディングスキル(RS)」は、学習を効果的に進めるための学習スキルの一つであり、授業のねらいを達成する土台となる資質・能力



児童生徒のリーディングスキルの育成が重要

読解力の向上



児童生徒

- 物語文で主人公の気持ちや情景を読み取る
- 説明的文章で筆者の主張を読み取る
- 長文を要約する

など

RSの視点からの授業改善

リーディングスキル

事実や根拠に基づいて書かれた文章の意味や伝えられたことの内容を正確に理解する

これまで多くの教員がもっていた、国語で繰り返し練習することで身につくと思っていた読み解力のイメージ



教員

日頃あまり意識されないあるいは年齢とともに身につくと思っていた読み解力

だからこそ!

学校全体で取り組むために
全教科・管理職を含めて

教職員がリーディングスキルテスト(RST)を体験する

・リーディングスキル(RS)について知るきっかけに

RSTの6分野					
係り受け解析	照応解決	同義文判定	推論	イメージ同定	具体例同定 (辞書・理数)

- ⇒文の意味理解は、まずその構造を正しく把握することから始まる。(係り受け解析)
指示語が指示する内容は、もの?場所?何かの修飾?(照応解決)
言葉と図やグラフを対応させることは多くの子どもにとって難しい。(イメージ同定)
課題(説明)に沿って自分の考えを持つことも同様。(具体例同定・推論・同義文判定)



(参考)
教育のための科学研究所
「設問の特徴と例題」
<https://www.s4e.jp/example>

・固定観念の解消に

- ⇒「読めばわかるはず!」「言ったら伝わるはず!」から「全員に伝わったかな?」へ

そして

リーディングスキルの視点からの授業改善へ

・的確な声掛けに

- ⇒「ここ」「それ」等の指示語の使いどころを意識する。
「工夫して書こう」「○○について話し合おう」等の曖昧な表現を減らす。
子どもに早く簡単に正確に伝えるためには?という視点を持つ。

・「指導の個別化」の充実に

- ⇒文章等の読み取りや説明の理解が難しい、児童生徒・場面を教師が把握する。
指導と評価の一体化をさらに充実させる。

つまり、「関係のない教科はない」ということ

事前研修

「そもそも
RSって?」

RST
体験

事後研修

「RSTを体験して」
「RSの視点からの
授業改善とは」

分野別
学習会

実践交流

◎今後のビジョン

知る

試す

磨く

R6年度
教職員
各校15名受検

R7年度
各校 教職員約15名
中学生受検

R8年度
各校 教職員約15名
小・中学生受検

令和6年4月 施行
令和7年4月 改定

このプランは、大阪教育大学 佐々木 靖 教授の監修のもと、「泉大津市学力向上プラン策定委員会」ならびに市教職員へのアンケートを参考に作成しました。

